

令和7年第4回吉備中央町議会定例会一般質問通告まとめ

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
1	8	山崎 誠 (一問一答)	創業支援について 1.創業支援の目標値について 2.過去3年間の創業支援事業の推移について 3.商工会との連携について 4.成果と効果、今後の課題について 5.創業支援事業の対象業種について	<p>人口減少が進み、小売り業・飲食業など小規模事業の廃業が相次いでいる。一方、起業する動きもかなり見られる。新たに事業を起こすことは地域に活力を生み出し大変有益である。町はこうした創業者に対し、起業時に必要な経費の一部を補助する制度を設けている。支援制度の成果と今後の課題を尋ねる。</p> <p>創業支援は産業競争力強化法に基づき、国の認定を受け行っていると承知している。相談や創業の目標値はどのように定めているか。</p> <p>創業支援事業補助金は、令和5年度500万円、6年度600万円、7年度600万円を予算計上している。過去3年間の応募件数、採択件数はどのように推移しているか。</p> <p>創業支援のため町商工会と連携し創業塾を開設し創業サポートを行っているが、過去3年間の受講生はどのように推移しているか。</p> <p>創業支援事業の成果と効果、今後の課題はどのように考えているか。</p> <p>現在、補助金交付要綱で農業は対象外となっている。理由は何か。対象業種に加えるべきではないか。</p>	町長
			住宅火災などの被災支援について 1.緊急時の住まい確保について	<p>予期せぬ災害によって衣食住を失うことは、その原因や規模の大小に関わらず被災者にとって大変辛く深刻なことである。こうした被災者に対する救援、救済、支援は政治のなすべき一丁目一番地の役割と言って過言ではない。今回は住宅火災によって生活基盤の一部を失った町民の、緊急の住まい確保及び残材処理の支援について尋ねる。</p> <p>大規模災害では特措法など特別措置によって被災者住宅が仮設されるのが一般的だが、個別の住宅火災で住まいを失った場合どのような支援態勢をとっているのか。</p> <p>①約1年前に発生した住宅火災では、被災者の寝泊りの確保にかなり手間どり、被災者は大きな不安を抱えることとなった。緊急時の住まいの受け入れ態勢はできているか。</p> <p>②被災の様子や被災者の状況によって、一時的・緊急的な対応を越えて期間が伸びざるを得ない場合どのように</p>	町長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
(1)	(8)	山崎 誠 (一問一答)	<p>2. 家屋火災の残材処理について</p> <p>カップリングパーティーについて</p>	<p>フォローするのか。マニュアルなどは作成されているか。</p> <p>③被災に対応する住宅を準備しておく必要がある。その際、入居の要件、家賃、電気水道などの経費負担、入居期間など入居条件を被災者に寄り添って設定することが大切である。どのように考えているか。</p> <p>④また、失った家屋の再建などで入居がさらに長期に亘る場合、罹災証明などによって町営・町有住宅への暫定的優先入居や、減免措置など導入すべきではないか。</p> <p>個人住宅の火災で発生したいわゆる火災ごみの処理は、現在家財ごみは高梁クリーンセンターで一般廃棄物として受け入れ可能だが、燃え残った建材は産業廃棄物として扱い、受け入れ不可と知らされた。この扱いは本来的には高梁地域事務組合の所掌事務であるが、事務組合の副管理者として関与する町長に、法解釈、町の関係条例、処理計画など基本的な見解について尋ねる。</p> <p>①法的问题についてはどのように認識しているか。産業廃棄物の処理及び清掃に関する法律(以下、廃掃法)によれば、住宅火災の残材処理は問題ないとされており、現に処理している自治体もある。</p> <p>②町には関係条例、災害廃棄物処理計画があるが、住宅火災ごみの処理に関しての扱いはどのように定めているか。</p> <p>③真庭市、赤磐市、美咲町など県内のいくつかの自治体では受け入れている。町はどのような見解か。</p> <p>④高梁クリーンセンターは高梁市と当町で事務組合を設立して運営しているが、受け入れできない理由は何か。</p> <p>平成 25 年度(2013 年度)から毎年カップリングパーティーが企画実行されている。近隣の高梁市、新見市との共同企画もあると聞くが、実績と企画内容について尋ねる。</p> <p>①イベントはこれまでに何回行われ、参加者の合計は何人か。</p> <p>②成婚は何組か。うち、町内居住は何組か。</p> <p>③企画内容はレクレーション的なものがほとんどと思われる。農業体験なども企画してはどうか。</p>	町長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
2	1	日名 由香 (一問一答)	町政について デジタル田園健康特区のこの1年の進展について 「首都岡山構想」の位置づけと今後の展望について 吉備高原都市の発展へ向けて	<p>昨年12月定例会では、町長から「チャレンジ&パワー」という力強いメッセージとともに、デジタル田園健康特区、首都岡山構想、吉備高原都市の将来像といった、本町の未来を切り拓く大きなビジョンが示された。あれから1年が経過し、この間に町の構想がどのように動き、どのような成果や課題が見えてきたのか、町長の考えを尋ねる。</p> <p>①この1年間で、特区としてどのようなプロジェクトを推進し、地域や関係機関からどのような反響・変化があったのか。町としての手応えは。</p> <p>②特区の取組がどこまで実装され、住民にどのような利便性の向上が生まれているのか、具体的な事例を。</p> <p>③この1年の取り組みの中で課題が明らかになった点や、改善すべき点、今後に向けた対応方針は。</p> <p>「首都岡山構想」は、災害時のリスク分散や地方活性化をにらんだ野心的なビジョンであり、大きな注目を集めた。吉備中央町も中核的なポジションとして注目を集めた中、町としてどのようにこの構想を受け止め、整理・推進しているのか。</p> <p>①町として、「首都岡山構想」の意義をどのように捉え、これまでにどのような方針整理や政策連動を行ってきたのか。また、吉備中央町が担う役割や将来像について、現時点での考えは。</p> <p>②構想を進めるにあたり、国・県・企業・大学などとの具体的な連携状況や、今後予定しているステップや調整・誘致などの動きは。また、他の中山間地域との広域連携の可能性は。</p> <p>昨年の答弁では、吉備高原都市の分譲地が完売に近づいている状況を、「町のチャンス」として前向きに捉える発言があった。</p> <p>①現時点での分譲地が完売した後に備え、新たな宅地造成の計画や候補地の選定状況について、町としてどのように検討を進めているのか。 また、比較的早く造成・整備が可能な場所があるのか、町としての方針や見通しは。</p> <p>②吉備高原都市の後期整備計画に関し、県への要望の進捗状況は。また、町としてどのように主体的に関わっているのか。</p>	町長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
(2)	(1)	日名 由香 (一問一答)	子どもの学びと 人的体制の充実 について 個別最適な学び の実現に向けた 支援体制につい て チーム学校の推 進について	<p>吉備中央町は、「確かな学力・豊かな心・健やかな体」の育成を掲げ、ICTの活用や学力調査による課題把握、不登校・いじめへの相談体制の強化、学校統合による魅力ある学校づくりを進めている。</p> <p>一方、統廃合後の学校現場では、学習のつまずきや情緒の不安定など、児童一人ひとりの課題がより顕著になっており、個別に寄り添う支援の必要性が高まっている。こうした状況を踏まえ、「個別最適な学び・ケア」を支える人的体制の強化が急務と考える。教育委員会としての現状認識と今後の方針を尋ねる。</p> <p>①少人数指導、学習状況の分析、支援員配置、学力データの活用など、個別最適な学びのために必要な体制を来年度どのように構築していくのか。</p> <p>②ICT や学力データを活用し、児童のつまずきを早期に見つけて支援につなげる仕組みづくりの考え方について、教育委員会の見解は。</p> <p>「きめ細やかな指導」を継続するには、担任一人では抱えきれず、チームで子どもを支える仕組みが不可欠であると考える。</p> <p>①複数担任や支援員の増配置など、見守りの層を厚くする 人的体制を来年度どのように確保するのか。</p> <p>②学級経営の負担を軽減するアシスタント配置、外部専門職との連携強化など、教員が子どもに向き合う時間を確保するための方策は。</p>	教育長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
3	6	河上真智子 (一問一答)	1.ごみ処理について ①リチウムイオン電池による事故について ②適切な廃棄方法について ③生ごみ処理機について ④生ごみ処理機の購入補助金について	<p>この夏、リチウムイオン電池による発火事故が度々ニュースに取り上げられた。適切な処理方法は周知できているか。また、生ごみの減量化の対策の現状について尋ねる。</p> <p>他の自治体では、廃棄されたリチウムイオン電池を使用した製品による発火事故で、ごみの受け入れ停止や多額の修理費用を要したケースがある。町内や高梁市のごみ処理場での事故の発生はないのか。</p> <p>電器店の回収ボックスに入れるのが安全な廃棄方法だが、そこまで行くのが難しい方もいる。蛍光灯のように定期的に回収することはできないか。</p> <p>生ごみ処理機の普及は、衛生管理やごみの減量に資するものである。現状はどうか。</p> <p>家族の人数や生活スタイルにより生ごみ処理機のサイズや機能は様々だが、概ね購入費用は上昇している。減量化対策としても有用であることから、物価上昇に伴って購入補助金の増額の検討が必要と考えるがどうか。</p>	町長
			2.公共交通について ①ベリーグッドカードの利用について ②自動運転モビリティの導入について ③デマンド型タクシーの運行時間について ④土日祝日の運行について ⑤ふれあいタクシーについて	<p>公共交通の充実は、自らの移動手段に欠ける住民には日常生活に直結する問題であり、より利用しやすく改良していく必要がある。</p> <p>ベリーグッドカードは、買い物などで高齢者にも使い慣れたものになっている。公共交通の清算に利用することで支払いがスムーズになり利便性が向上するのではないか。</p> <p>吉備高原都市地域で病院や薬局、複合施設の吉備プラザを周回する自動運転モビリティを導入し、移動の利便性を図ってはどうか。</p> <p>現在の8時～17時の運行時間では対応しきれない時間帯のニーズがある。運行時間拡大の検討が必要ではないか。</p> <p>高齢者も気軽にイベントなどにも参加できるように土日祝日の運行を望む声があるが、検討ができるないか。</p> <p>ふれあいタクシーとデマンド型タクシーの統合など制度の見直しの予定はないのか。</p>	町長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
(3)	(6)	河上真智子 (一問一答)	⑥ ドライバーの確保について ⑦ へそ 8 バスの運行路線について	デマンド型タクシーの利用者の増加やスクールバスのドライバーの高齢化対策に向けて事業者はドライバーの確保に苦慮している。もはや事業者の自助努力だけに頼れないので現状である。行政にできる支援はあるのか。 利用率の改善のために、利用者のニーズに合った運行ダイヤや路線の変更に関してなどの検討はなされているのか。	

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
4	7	平澤 一浩 (一問一答)	地域おこし協力隊について	<p>①これまで吉備中央町で活動した地域おこし協力隊の人数、任期終了後に町内に定住した割合はどの程度か。</p> <p>②定住できなかった理由として把握しているものはあるか。</p> <p>③上記の理由をふまえて、地域おこし協力隊をどのように受け入れ、支えていくのか、働き先の確保、定住支援などふまえた今後の展望を問う。</p>	町長
			小学校の安全対策について	<p>10月21日未明、吉備高原内的一部地区において停電が発生したことを踏まえて以下のことを問う。</p> <p>①教育委員会が把握したのは何時か。</p> <p>②教育長へ伝わったのは何時か。</p> <p>③学校の開校の可否の責任者は学校なのか教育委員会なのか。</p> <p>④スクールバスの運行前に学校開校可否の判断の元、連絡し閉校する措置がとれたのか。 (警報発生以外の事案において)</p> <p>⑤ICT化が進む学校教育現場において停電等により機器の使用が支障がある時の教育体制はどうになっているのか。</p> <p>⑥登園、登校後のうさぎメールなどの情報発信ツールが停電などの影響をうけ、使えない場合の保護者への連絡手段など、一斉通達を補完する全家庭への連絡ツールをどのように考えているのか。</p> <p>⑦今後の体制作りについて。 (各校、保護者との連絡手段など)</p> <p>⑧アフタースクール、放課後こども事業の担当課などとの連携体制について。 (長期休み中も含めて)</p>	教育長
			吉備高原地区の展望について	吉備高原地区の整備計画の現状と令和8年度にむけた展望について。	町長

順位	議席	質問者氏名 (一問一答)	質問事項	質問内容	答弁者
5	11	黒田 員米 (一問一答)	1.重層支援体制整備について 2.小学校について	<p>地域課題が複雑化する中、「重層的支援体制整備事業」は本町にとって重要である。しかし、国の移行準備事業の対象でありながら、地域住民や民間団体の参画が十分ではない。そこで、以下の点について尋ねる。</p> <p>【質問①】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.本町が描く重層的支援体制整備事業のビジョンは何か。 2.府内連携と社協との役割分担をどう整理するのか。 3.地域住民・民間団体が関わる仕組みをどう整備するのか。 4.地区担当制や福祉委員会等の再構築をどのように進めるのか。 5.ICT活用や情報共有の仕組みづくりをどう進めるのか。 6.令和8年度の事業実施に向けたスケジュールはどうなっているか。 <p>【質問②】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.地域住民・地域団体の具体的な参画の形はどう想定しているか。 2.地区担当制の導入時期とモデル地区の設定方針はどうか。 3.府内連携強化のため、新たな会議体や協議の仕組みを設ける考えはあるか。 4.ICTによる相談記録・ケース共有など、活用の具体像はあるか。 5.令和8年度に向けた工程表・ロードマップをどのように描いているか。 6.社協にはどの役割を期待し、行政とどう協働していくのか。 <p>【質問③】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.行政は事業推進にどう関与し、リーダーシップを発揮するのか。 2.住民理解のために、行政が地区へ出向き説明する考えはあるか。 3.推進のための予算・人員確保をどのように図るのか。 	町長
				地域は小学校から学習支援や見守り、草刈り作業や行事協力など多くを求められる一方、地域や公民館の行事には「働き方改革」を理由に校長のみが出席し、教職員の参加が減っている。この一方向の関係は地域の協力意欲を下げ、子どもたちにとっても「地域で育つ」教育環境を弱めかねないと考える。	教育長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
(5)	(11)	黒田 員米 (一問一答)		<p>1.学校と地域の協働について、教育委員会としては現状をどのように把握しているのか。また、教職員の地域活動への参加が減少している要因について地域への説明がないことも原因。教育委員会の見解を尋ねる。</p> <p>2.文部科学省では、働き方改革と地域との協働を両立させるよう求めている。地域行事や活動に教職員が関わることは、単なるボランティアではなく「社会教育の一環」として重要との考えによるものと理解するが、文部科学省の考え方を教育委員会として、学校に対し地域活動への理解と協力をどのように指導しているのか尋ねる。</p> <p>3.今後、学校と地域が一方通行でなく「双方向の協力関係」を築くために、地域行事と学校行事を整理した年間協働スケジュール表の作成、地域貢献活動を評価・表彰する制度、「地域学校協働本部」や「学校運営協議会」の積極的な活用、といった取り組みをさらに積極的に町として推進すべき。教育委員会として、これらの仕組みを整備・指導する考えはあるか。</p> <p>4.働き方改革を理由に地域との関係が希薄化している現状は、制度の趣旨について少し誤っているのではないかと感じる。「教員の負担軽減」と「地域との協働」をどう両立させるのか、その具体的な方策を町としてどのように考えているのか、教育委員会の見解を尋ねる。</p> <p>5.地域は学校を支え、学校は地域に学ぶ。互いの信頼関係を再構築し、地域に根ざした教育行政を実現するための具体的な行動を求めるが、今一度、教育委員会の考え方を示されたい。</p>	
		3.放課後児童クラブについて		<p>放課後児童クラブは公設公営化で安定したが、民設民営時代の行事がなくなり地域との関わりが低下している。これは本来の健全育成の趣旨から外れているとの指摘がある。また、本町は利用要件に保護者の就労を求めていたが、全国では就労証明を不要とする自治体も増え、国も必須としていない。</p> <p>1.放課後児童クラブの利用要件について、国の指針の範囲内で柔軟な運用を検討すべきではないか。特に、就労要件にこだわらず、地域での居場所づくりとして幅広い児童を受け入れる仕組みに見直すべきだと考えるが、執行部の見解を尋ねる。</p> <p>2.地域との協働の再構築について、地域のイベント参加、地域ボランティアの受け入れ、民設民営時代に行われていた体験活動の復活など、地域とつながる放課後児童クラブに移行していくための具体的な方針を示されたい。</p>	町長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
(5)	(11)	黒田 員米 (一問一答)		<p>併せて、放課後児童クラブが単なる預かり施設ではなく、地域の子どもの育成拠点として機能するための仕組みづくりを、町としてどう進めるのかを尋ねる。</p> <p>3.現在、本町では「利用児童が1名でも指導員2名配置」という極めて硬直した基準が運用されているが、これは中山間地域における現実と乖離している。国の配置基準はあくまで“望ましい基準”であり、地域実態に応じた柔軟運用が認められている。今後は、利用人数・曜日・季節に応じたシフト管理など、現場負担を軽減しつつ持続可能な体制を構築すべきと考え行政の方針を尋ねる。</p>	

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
6	5	丸山 節夫 (一問一答)	農業振興について 1.米作り農家応援対策 2.町ふるさと納税対策	<p>令和の米騒動と呼ばれた米需給の混乱は、町内米作り農家にとって多くの不安材料をもたらしたと受け止める。</p> <p>高温化などの気象変動に加え、「増産」から「需要に応じた生産」へと数か月での国策軌道修正や、早くも米価の急落が囁かれる中で、生産意欲の低下など農作不安への声が多い。</p> <p>今日、生産者に寄り添う支援制度や応援対策による農家気運を高めるべき町独自施策の必要性を感じる。これに関する町長の見解を問う。</p> <p>◎支援対策として</p> <p>1 現行米作り農家支援制度（現補助金事業の継続性について）</p> <p>◎応援対策として</p> <p>1 JA・県普及センター・行政・生産者連携の研究討論会、講演会、農業祭などの開催</p> <p>2 県下町村長会合同による国への政策要望 (主に米価の安定対策・草刈り用大型重機、草刈り機アタッチメント購入補助)</p> <p>町は、今年10月にふるさと納税指定復帰に向けた対処策として、町長諮問組織「吉備中央町ふるさと納税検証会」を発足された。</p> <p>当該検証会では、一連の事象の明確化、原因究明と再発防止策の検討など、再指定に向けての体制構築を目指す内容と理解している。</p> <p>本検証会の設置を踏まえ次の4点を町長に問う。</p> <p>1 検証会の概要（進捗状況）</p> <p>2 外部有識者の採用予定</p> <p>3 答申書（最終報告書）の公開について</p> <p>4 国への制度改善・適正化の要望</p>	町長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
(6)	(5)	丸山 節夫 (一問一答)	福祉事業について 福祉移送サービス対策	<p>町では、要援護高齢者や身体障害者などの方々を対象とした福祉移送サービス事業に取り組まれている。特に高齢化、少家族化が進む中で、利用を必要とされる皆さんにとって不可欠な事業と認識している。</p> <p>この制度は、移動手段を持たない個人、家庭的事情を有する方々を対象として、利用目的は 3 点に限定されている。最近では、こと入退院（一時帰宅含む）・転院に関する行政支援策を加味した利用ニーズの高まりを感じるが、伴う助成措置に関し、次の 2 点を問う。</p> <p>1 対象範囲拡充の考え方（入退院・一時帰宅・転院時の移動費用負担軽減に考慮した行政支援の必要性）</p> <p>2 現行の移送サービス事業の利用範囲は、ドアツードアが原則とも聞くが、現行規則では対応不可である。であるならば、それに替わる新たな制度設計はできないか。</p>	町長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
7	2	渡邊 順子 (一問一答)	枯れ松の対策について	<p>町内のあちらこちらで枯れた松を目にすると。また、雨や強風による倒木もある。これらについて以下のことを尋ねる。</p> <p>①町としては枯れた松に対して、どのくらい状況を把握しているのか。また、国・県有地や町有地、私有地とあるが、それぞれどのような対応をとっているのか。また、枯れた松にピンク色のテープを巻き付けているのをところどころで見かける。例えば、にじいろ広場には多くのピンク色のテープが巻かれている枯れた松があるが、これはどういう状況なのか。</p> <p>②大雨や強風時に、倒木を耳にしたり、連絡を受け現場に足を運んでみたりしてきた。役場に連絡したこともある。実際に連絡を受けた場合には、どんな対応をしているのか、また倒木による交通事故等の被害はなかったのか。</p> <p>③倒木まではいかないまでも、電線や隣り合う木々にもたれるような形でかろうじて倒れていない松も見かける。これについての対応はどうか。</p> <p>④今後の対応・対策について。</p>	町長
			まいたけ菌床栽培施設の指定管理について	<p>指定管理である吉備中央町特用林産物まいたけ菌床栽培施設、きのこの里のぞみ園について以下のことを尋ねる。</p> <p>①今年度で指定管理者取消（管理業務の全部取消）処分となるようだが、まだ指定管理期間は残っている。期間途中による取消処分について経緯を尋ねる。</p> <p>②まいたけ栽培は、岡山県下において現在吉備中央町がほぼ中心となっている。町の特産物とも言えるのではないか。この点について町としてはどのように考えているか。せっかく施設があるのだから、町の特産物として残す方法は考えられないのだろうか。このまま指定管理取消となると、今後はこの施設をどうしていくのか考えを尋ねる。例えば、新たな指定管理者を募り、いくらかの指定管理料を払ってでも、どうにか施設の存続を図ることはできないものか。</p>	町長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
8	3	我妻 瑛子 (一問一答)	<p>1.旧下竹荘小跡地活用について</p> <p>(1)跡地活用方法の検討状況について</p> <p>(2)跡地活用組織の意思の反映について</p>	<p>①公営塾、閉校後の資料や歴史的民族資料の展示、地域集いの場、社協の他に、6月の全員協議会で地域包括支援センターの名前も上がったが、現在検討されている活用組織は変わりないか。</p> <p>②令和7年度当初予算において、校舎利用に向けた長寿命化のための改修に伴う設計業務委託料を総額726万円計上している。改修に伴う設計費、建築確認申請業務、施設の耐力度調査業務委託料などの総額として3月議会で説明があった。</p> <p>i 設計業務の進捗状況はどうか。</p> <p>ii 「長寿命化のための改修」ということは、移転に伴う活用組織の要望に応じた改修は含まれていないのか。またその予定はないのか。</p> <p>①社協（跡地活用組織）への打診</p> <p>令和6年1月に、地元、下竹を楽しむ会から要望を受け、総合政策会議で検討、12月23日付で町長より下竹荘小学校への教育委員会事務局及び公営塾の移転、歴史的民俗資料等の展示スペースの設置、地域コミュニティ活性化の観点から地域の集いの場の設置、また将来に向け、社会福祉協議会等の集約化の検討を行う旨の回答があったことが3月議会同僚議員の一般質問のやりとりのなかで示された。</p> <p>12月17日の全員協議会では「下竹地区自治会から総合的な教育機関、地域の集いの場、社協の集約化といった活用の要望がある」と執行部より報告があり、令和7年度当初予算では、設計業務委託料として726万円計上された。</p> <p>6月17日の全員協議会での学校跡地利用説明の中では、社協と地域包括支援センターの集約化が新たに検討されていると報告された。その際、社協の移転について、社協への打診はおこなったのかという問い合わせに対し、「打診はおこなっていて、社協の理事会、評議会でも話をされて、現地を確認している」と町長より説明があった。</p> <p>社協への打診はいつ、おこなわれたのか。また、町は理事会、評議会の議論の内容を把握しているのか。理事会、評議会から出されている懸念事項と移転メリットは何か。</p> <p>②跡地活用組織の意思の反映</p> <p>学校跡地利用は地域住民の意向を重視し、地元地域による活用が優先されるもので、旧下竹荘小においても集いの場としての活用も検討されている。しっかりと後押</p>	町長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
(8)	(3)	我妻 瑛子 (一問一答)	(3)災害対応等 (4)ビジョン (5)スペースの問題	<p>して頂きたい。</p> <p>同様に、他組織に関しても、意向の確認と尊重、特に移転自体に前向きなのか、懸念が強いのかを踏まえて反映させてほしいがいかがか。</p> <p>①社協の移転理由は、現在の施設の老朽化対策が含まれているのか。</p> <p>②旧下竹荘小は土砂災害警戒区域となっている。社協は災害発生時、ボランティアセンターを立ち上げる。福祉的な拠点としても核となる社協を置く場所として相応しくないのではないか。</p> <p>①教育委員会と公営塾、社協と地域包括支援センター、教育と福祉行政の拠点になることになる。それぞれ何を実現しようとしているのか、ビジョンを示す必要があるのではないか。またそれは、それぞれの課や組織とともに練りあげ、順番としては、その上での移転・集約ではないか。</p> <p>②機関横断型の取り組みが求められている。移転・集約と同時に、教育・子育て分野、介護・障害者などの福祉分野においてこの強化や改善に取り組む認識か。</p> <p>①教育行政と福祉行政同一場所に置かなければならぬのか。あまりにも限られたスペースに詰め込みすぎているのではないか。</p>	
		2.PFAS 健康影響対策と調査について	(1)健康影響調査の位置づけ (2)健康影響調査の委託費と内容 (3)健康影響調査の見通し	<p>①健康影響調査は PFAS の曝露と健康状態の関係を明らかにすることが目的のひとつであると言えるか。これはすなわち、疫学調査なのか。</p> <p>①現在の健康影響調査は、岡山大学と川崎医大が解析を担っているということだが、それぞれ健康影響対策委員の先生が担っているということか。</p> <p>②これまでに依頼した健康影響調査のデータ分析・調査研究の委託費、内容は。</p> <p>①いつ、何をしていくのか健康影響調査の見通しが示されない。誰がいつ計画するのか、すでにしてあるのか。</p>	町長

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
(8)	(3)	我妻 瑛子 (一問一答)	(4)子どもの健診データの反映 (5)2024 年度調査最終報告 (6)健康影響調査評価のための組織 (7)PFAS 外来の設置	<p>①PFAS は低出生体重や幼児や胎児の成長低下が指摘されている。年に一回実施される学校健診データは貴重な調査対象である。教育委員会への打診はおこなったのか。それはいつで、進捗状況はどうなっているか。</p> <p>①2024 年度の調査では、調査票の内容が煩雑でほぼ空欄で出されている方もいる。何人がこういった状況なのか。最終報告までに個別聞き取りをおこなうなどして埋めるのか。</p> <p>②2024 年度調査最終報告にむけて、現在町が保持している調査票と血中濃度データを補完する取り組み(調査票の穴埋め、子どもの学校健診データ収集以外に)は何を考えているか。</p> <p>11月4日の連絡協議会で健康影響調査評価のための組織を新たに設置すると報告があった。</p> <p>①組織を構成するメンバーはどのように選定されるのか。打診をしているのか。</p> <p>②組織を設置する目的は何か。</p> <p>③健康影響調査計画は誰がおこなうのか。組織でおこなうのか。</p> <p>④調査結果の解説は組織メンバーがおこなうのか。</p> <p>①PFAS に係る疾患や最新の知見の収集をおこなう医師による診察が受けられる環境を整備してはどうか。</p>	

順位	議席	質問者氏名	質問事項	質問内容	答弁者
9	10	片岡 昭彦 (一括)	町道・農道等における維持管理について	<p>1 町道・農道における枯れ松などによる危険木の除去対策について、住民が重要な生活道として利用している農道についても、町道同様の倒木除去の対応ができないか。</p> <p>2 町道などの生活道における草刈り作業を実施するにあたり、自治会等が行う各種の補助制度がある。その一つである草刈り応援隊について、「活動団体数」「活動状況」「補助事業が地域に浸透しないのか」を問う。あわせて、現状制度の幅広く活用できるよう拡充ができるないか。</p>	町長